

日刊県民福井 掲載記事 平成26年 2月27日

多様化する精神疾患

複雑で目まぐるしく変化する現代は、ストレス社会とも称されています。国が最近、精神疾患をがんや脳卒中などと並ぶ五大疾病の一つに指定したように、精神疾患の概念や病態はますます多様化して広がり、迅速・適切な対応が不可欠になっています。

二〇〇四年に厚生労働省が示した「精神保健医療福祉の改革ビジョン」には、「入院治療から地域社会への展開」という方向性が掲げられています。精神病床の機能分化や、早期退院・社会復帰を目指した入院期間の短縮、地域との連携強化など、より効率的な治療体系が求められています。県内でも、最近では病床を持たない精神科クリニックが増え、症状の軽い患者さんが随分受診しやすくなっています。反面、急性期・重症の患者さんを受け入れる医療機関が乏しいのが現状です。

県立病院こころの医療セ

県立病院こころの医療センター長

村田 哲人



医療変革の時代を迎えて

ンターには、精神科救急病棟、デイケア科といった棟、精神科急性期病棟、心特化した病棟や診療科を備えた身ストレスケア・気分障害を扱っています。急性期から社病棟、身体合併症病棟、ア会復帰まで一貫した医療をルコール治療病棟、作業医 提供できる体制の下、心の

診療やリハビリに力を注いでいます。

また、救急医療・心身医療の社会復帰が図られるよう、医師・看護師・精神保健福祉士・心理士・作業療法士等が互いに協力して治療に当たっています。

以前は一日平均二百人を超える患者さんが外来を受診され、待ち時間が長いと不評でした。このため紹介

高度な医療技術や設備を活用して心身両面からの先進的医療を展開しています。救急患者の15%程度は自院を紹介しました。この結果、一三年度の外来患者数の約約五百人で、一人当たりの診療時間をしっかりと確保する効果も生んでいます。

精神医療が変革を求められる時代を迎えています。当センターは総合病院として他の診療科との密接な連携の中で、心身両面に配慮した全人的な医療の提供と

多職種協働のチーム医療により、地域社会に開かれた精神医療に取り組んでいます。



緑に囲まれ、開放的な県立病院こころの医療センター病棟＝福井市四ツ井2丁目

他診療科と密接な連携

きます。

二〇〇七年に、精神科救急医療を特に手厚い医療・看護体制で行う、県内唯一の精神科スーパー救急病棟を開設しました。患者さんが速やかに病状回復し早期

健康